

平成 2 5 年 第 1 0 回
仙 北 市 教 育 委 員 会 定 例 会 会 議 録

平 成 2 5 年 9 月 2 6 日

仙 北 市 教 育 委 員 会

平成25年第10回仙北市教育委員会定例会会議録

1 開会宣言 平成25年9月26日(木) 午後1時55分

2 場 所 角館庁舎 西側庁舎2階 第4会議室

3 出席委員

委員長	佐久間健一
委員長職務代理者	安部哲男
委員	河原田修
委員	坂本佐穂
教育長	熊谷徹

4 出席した事務局職員

教育部長	田中宣男
教育次長兼教育指導課長	田口桂一郎
教育総務課長	畠山靖
生涯学習課長	成田祐子
スポーツ振興課長	田口幸栄
文化財課長	小松誠一
教育指導課参事	渡辺久信
教育指導課参事兼北浦教育文化研究所長	鈴木達朗
教育指導課参事兼田沢湖学校給食センター所長	稲田正之
教育指導課参事兼角館学校給食センター所長	藤村一栄
教育指導課参事兼西木学校給食センター所長	芳賀京子
生涯学習課参事兼角館公民館長	本田俊彦
生涯学習課参事兼田沢湖公民館長	戸村和子
生涯学習課参事兼学習資料館・イベント交流館長	鈴木孝昭
生涯学習課参事兼市民会館・田沢湖図書館長	藤原眞榮
スポーツ振興課参事	草薨正勝
文化財課参事	中村和彦
角館町平福記念美術館長	大楽裕

5 議事 なし

(佐久間委員長)

ただ今から、平成25年第10回仙北市教育委員会9月定例会を開催いたします。

それでは、次第により会議を進めさせていただきます。書記には高倉参事、栗原主任を指名いたします。議事録署名は、河原田委員と坂本委員にお願いいたします。前回会議録の承認については、会議終了後にお願いいたします。

次第4、私の挨拶であります。座ったままで失礼をいたします。始めに、全国学力調査が行われて発表になりました。本県が6回連続トップ級を維持という快挙であります。2007年度当初から続けられた榮譽でありまして、本市教育関係者に感謝を申し上げたいと思います。静岡県では、小学校国語の平均点以上の校長を、あいうえお順に公表したということで全国で話題になりました。9月の定例議会が行われまして、一般質問に教育関係の質問が多く提出されました。今後検討しなければならないようなことも質問されていたようなので、後ほど部長からご紹介いただきたいと思います。角館の祭典が行われました。教育委員会の職員の皆さまが、立町のブースに勤務されておりまして、校長先生たちも巡回されている姿を拝見して、たいへんご苦勞であったと思います。山車の様子を見ますと、お年寄りから中学生までいろいろな任務があるようですが、中学生が重要な役割を担っていて、それをこなしている姿を見て、たいへん伝統ある行事で、交わり、縦割りの生きた教育であると強く思いました。9月8日、2020年のオリンピックが東京開催ということが決定されました。感ずるところ、震災に遭った日本よがんばれ、と世界の皆さんが日本にエールを送った表現をしたものだと感じます。現在の中学校の皆さんは、オリンピックに選手として出られる可能性もあります。文科省では、全国に体育の指導を強化されました。秋田県でも、知事が強化策を検討していると発表されておりまして。仙北市教育委員会でも、スポーツ振興課が出来上がっている訳ですから、学校を含めて、オリンピックを目指していろいろな面で活動していただきたいと思います。田沢湖マラソンが6,000人を超える参加者で、一部コースを変更するなど、大変ご苦勞されて進められたと思います。関係された皆さんに勞をねぎらい申し上げたいと思います。それから、生保内節全国大会も、会場が工事改修中にもかかわらず、盛大に行われたということです。本市の文化遺産であります。今、文科省では中学校で民謡を教えることを義務付けています。生保内節を取り入れるなど検討していただきたいと思います。

それでは教育長の事務報告に移ります。

(熊谷教育長)

それでは9月定例会教育委員会事務報告をさせていただきます。8月19日に9月議会の本会議がスタートいたしました。26日が一般質問、29日が各常任委員会でした。9月7日、西木正明さんのサイン会でした。前の講演会の聴衆が少なかったことがございましたが、今回、情報センターを中心にたいへん働きかけをしまして、100人以上の方が集まりました。西木先生のお話しでは、東京でやっても、まず5、60人だそうですが、100人も来たということで、大変お喜びになっておられました。10日、白岩焼窯跡調査報告会を白岩地区の会館で行いました。11日、生保内小学校の子どもたちが、先達の被災したところを訪問して見舞金等を届けました。大変喜んでいただきました。15日、マラソン大会当日でした。6,259人という、昨年より1,100人くらい多い人数で、スポーツ振興課は本当に難儀した訳ですが、なんとか無事に大きな問題も無くできたということで、大変良かったなと思っております。21日、創立10周年記念、生保内小の記念式典がございました。同じく21日、内陸リゾートカップ100キロマラソン2013の前夜祭がございました。参加者が1,700数人ということで、非常に参加者が多かったということであります。22、23日、生保内節全国大会で、参加者は135人でした。小山審査委員長からも大変良いお話しを聴けました。25日、三館合同企画展オープ

ニングセレモニーが盛大に開催されました。今後の行事予定ですが、10月1日、愛媛県砥部町議会総務文教委員会の一行の皆さまが、秋田県の学力向上の秘策を聞きたいということで来市になります。4日、大曲養護学校せんぼく分教室秋まつりです。

祭典について、委員長からお褒めの言葉がありました。ポケットパークでは、教育委員会のメンバーを中心に、学校の先生方もお寄りになって、非常に良く見回りができているなと思いました。この間、反省会がございまして、小、中、高と連携して生徒指導をがんばろうではないかとお話しして参りました。オリンピックに向けての中学生単独の指導は、なかなかできないのですが、いずれ、いろいろな形で仙北市の子どもたちがオリンピックに出られるまで成長できるように支援して参りたいと思います。

以上であります。

(田口次長)

全国学力学習状況調査の仙北市の概況について、私からは概要を、所長から内容を報告させていただきます。今年度は、4月24日に小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語の基本問題A、活用問題B、数学の基本問題A、活用問題Bの2教科で行われております。今回の特徴は、抽出ではなく、全国の学校を対象としての調査となっております。私立の学校については、自由参加でございますけれども、秋田県の場合は100%の参加でございました。秋田県は6年連続トップ級、小学校については、ほぼ全国1位という状況ですが、仙北市は県平均よりは若干及ばないものの全国平均は全て上回っています。

(鈴木北浦教育文化研究所長)

全国学力学習状況調査の質問紙についてですが、児童、生徒ともに良好な回答が多かったと捉えております。教育委員会だよりの「きたうら」でも紹介させていただきましたが、「将来の夢や希望をもっているか」という問いに対しては、「とてももっている」や「ややもっている」の肯定的な割合が、仙北市の場合は、小学校では9割以上、中学校でも8割程度ということで、他の質問も含めまして、県よりも肯定的な回答率が高くなっています。以上です。

(佐久間委員長)

以上で教育長の事務報告が終わりました。ご質問等ございませんか。

(安部委員)

文化財課に質問です。9月10日に白岩焼の窯跡の報告会があったようですが、簡単などのような内容だったか、出席の方々がどのような反応だったか、要望などあったかどうか。二つ目は、学力調査の結果について、全国平均を上回るという喜ばしい報告がありましたが、平均を上回ったからといって、手放しで喜んでいてはられないのではないかと。つまり、平均は全国を上回っているが、個々の学校ではかなりの凹凸があると思うのです。そういうことに対して、教育委員会としてどういう指導をしていくか考えておられると思います。個々の子どもたちに、ある程度の平均的な最低限の学力を定着させる方策というものが、学力テストの結果以上に大事だと私は思っております。生保内小の10周年のフェスタに行った時、非常に感動的な発表会でした。子どもたちの発表の内容も、式典も、合唱も非常に感動的で、見せてもらった私たちが感動したということは、子どもたちはもっと感動してステージを下りて行ったのではないかと思います。ステージに上がる時の顔と下りてくる時の顔が全く違っていただけに感じました。そういう感動的な営みの繰り返しが、学力の向上のステップになるのではないかなと思います。文化財関係と学力関係について二つ質問でした。

(小松文化財課長)

昨年度、修復が行われて、5月31日までで終了しました。県の文化財保護室から調査報告をしていただきたいと言われて、今回、秋田大学の西谷教授から地区の会館で報告していただきました。内容につきましては、教授の専門が地質学ということで、主に地震の関係について説明していただきました。今回は、棄損についての説明ではございませんでした。

(熊谷教育長)

地元の方の反応は、窯跡がかなり明確に分かって良かったなど、このあとどのようにしていくかなど良い、ムードの中での話し合いでした。

(田口次長)

全国学力学習状況の詳細な分析にも関係するかと思いますが、仙北市内の学校の個々の状況を見ますと、かなり県の平均を上回って、平均点の9割以上を超えている学校もあれば、県平均、全国平均を若干下回る状況の学校もございます。個々の学校に応じた分析、改善方策が必要であると感じております。この点については、北浦教育文化研究所を中心として、市全体として共通に劣っている設問、部分を明らかにして、学校に改善の方策を提示するとともに、個別の学校毎の分析を詳細に進めていただくようお願いしております。課題等を明確にして、全校体制で改善することを強くお願いしながらも、研究主任、教務主任に集まっていたいただいて、それについてのそれぞれの方策について情報交換をするというようなことをしながら、全体の底上げを図る施策を、今後実施していきたいと考えております。また、平均という数値にごまかされず、個別の成績等をどう改善するかということに重点を置いた、それぞれの学校の施策を明確に出さなければいけないと感じております。最終的には受験に結びついていく訳ですので、それをクリアするための基礎学力をしっかりと定着させるということは、学校教育の責任だと感じております。A問題が基礎的な問題で、それが全国平均でトップレベルであるということは、個別指導においても、ある程度、秋田県は頑張っているという証だと思いますけれども、個々で平均点を大幅に下回って、平均すると8割から9割なんだけれども、20%、30%で留まっている個別の児童もいる訳ですので、そういったところの手厚い回復措置を最優先に取り組んでいかなければならないと感じております。学校でもその点については、補習授業等で努力しているところですが、小規模校では比較的そうした時間を確保しながら手厚い指導が可能ですが、大規模校にとっては、人的な配置等、不十分なところもありまして、その辺は工夫しながら、悩みながら対応しているところがございます。いずれ、安部委員からご指摘のあったことは、重要なことと考えておりますので、今後も、平均という数値にごまかされない個別の指導の徹底等、学力の定着に確実に結びついていくよう、教育委員会としても各学校の現状を把握しながら、分析して、手助けできるところは手助けしながら対応して参りたいと思います。やはり、そうは言っても勉強、勉強、テスト、テストだけでは、バランス良い人間形成はできないと感じておまして、安部委員からもご指摘があつてように、感動体験というもの、個々の学校が楽しくて、日々の授業が楽しくて、友達と触れ合えることが楽しくて、といったベースがあつての学業充実だと思いますので、各学校ともそういった面も当然踏まえながら、「知・徳・体」のバランスのとれた教育課程を組みながら、行事指導も大事にしながら、机に向かう座学だけになるようなことは決して無いように、教育長も再三、校長会等で話していただいていることなので、今回のフェスタなどもそうした意味合いで実践していただいたと考えておりますので、そう

いった点でバランスの良い行事等の充実等も踏まえて、学校に呼びかけていきたいと考えております。

(熊谷教育長)

今、次長がおっしゃったとおりですが、私も生小フェスタに代理と一緒に出席させていただき、本当に感動しました。素晴らしかったです。子どもが主役で、先生方は黒子に徹してあれだけのことをやれる表現力、校歌の声の高さ、質、それからあんべいいいな歌、劇、飛び入りのパフォーマンス、これぞ特活というものでした。ああいうものの積み重ねが学力に大きく関わっていることを強く感じました。そういうものを大切にしながら、基本的な学力をしっかり身につけて、確かな学力を定着させていく方法でやって参りたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

(佐久間委員長)

通常であれば議事に入るわけですが、今回は案件がなかったということですので、その他に入ります。幼稚園のフッ化物洗口の実施についてお願いします。

(田口次長)

6月20日に行われました第7回教育委員会定例会において、浦山保健課長と新山保健師が、市内の幼稚園におけるフッ化物洗口について説明に参っております。その後、保健課と教育委員会と子育て推進課の実務者担当レベルで、今後のスケジュールについて9月上旬に打合せ会を開いております。保育園については、既に実施することが決まっております、それに向けたスケジュールで、保育園への説明、学校歯科医への承諾等の実施をしております。教育委員会管轄の幼稚園については、教育委員会の正式決定を待って各園への説明になる訳ですけれども、前回の説明の際には、質疑応答、意見交換を行っていただきましたが、最終的な実施、あるいは実施見合わせという協議には至っておりませんでしたので、今回、その点について協議していただきたくお願いいたします。なお、実施については、来年度の5歳児、年長組のみで、5月以降を予定しております。

(佐久間委員長)

具体的な提案がされた訳ですが、ご意見をいただきたいと思います。

(河原田委員)

6月の定例会の時に話があったように、フッ素は確かに虫歯の予防効果があるので、いいんじゃないかなと思うのですが、本当にフッ素洗口に効果があるのか、自分の中で疑問があるんです。歯質の強化には確かに効果があるので、やらないよりはやった方がいいのかな、という感じです。実際診にいきますと、虫歯の無い子もたくさんいるんです。秋田県の中でも仙北市は、う蝕罹患率が高いのですが、なぜ高いのかというと、家庭環境だとかの個別な問題が絡んでくると思います。フッ素洗口を、う蝕予防だとか、虫歯を作らないための道具の一つとして、それ以外に甘味食の取り方や食生活だとか、歯ブラシ指導などを含めてフッ素洗口をするのであれば、効果はもっと上がるだろうと保健課の方たちとも話しをしました。

(安部委員)

専門的なことは分からないのですが、これが万能ではない、ということを伝えながら、虫歯予防の衛生思想を徹底するといいますか、食べ物の摂取の仕方だとかを合わせてやっていただきたい、という要望を盛り込むようお願いしたらどうかと思いました。

(田口次長)

大事なことだと思しますので、保健課に要望したいと思いますが、保健課としても、フッ化物洗口が万能ではなく、それだけの施策ということよりは、それを契機に、中核としながらも、継続することで虫歯予防に対する関心を高めたいということ、それから、歯科衛生士による継続的な口腔ケアの指導を行っていくということ、そして規則正しい食生活や甘味コントロールの知識向上、生活習慣の改善等にも繋げていきたい、ということは十分踏まえられているようです。

(坂本委員)

賛成か反対かということは抜きにして、フッ化物洗口による副作用とかアレルギーというものがないのか心配です。それから、実施している地域では、実際に虫歯が減っているのかということ。ちょっと話がずれるかもしれませんが、前に子宮頸がんのワクチンの時に、仙北市では接種するように勧められたのですが、全国的に副作用とかがあったということで、今あまり受けることを推進しなくなってきた、ということがあって、もしも何かあってからでは、責任がどこになってしまうのか心配なので大丈夫なのかなと気になります。

(河原田委員)

アレルギーはたぶん無いと思います。添加物のせいで、赤くなったんじゃないかという症例は聞いたことがあります。フッ素洗口をする量を例えば全量飲んだとしても、中毒を起こすような量ではないです。仙北市内西木地区2カ所で実施していますが、全員参加しているか聞いてみたら、過去にうがいができない子がいて、その子は参加しなかったということでした。参加する、しないは、親御さんに同意書を出してもらうことになるかと思うのですが、他地区では、参加しない子に、いじめとか起こらないように水でうがいさせているそうです。これまでに西木地区で同意書を出してくれなかった親御さんは、いらっしゃらなかったそうです。フッ素洗口は、新潟県から始まってきて、去年くらいから秋田市でも始まっています。何か問題があれば新聞に載るはずなので、そういう話が聞こえてこないのも、ほぼ安全だと思っていけないのではないかと思います。

(坂本委員)

フッ素洗口による効果はどうか。

(河原田委員)

学校健診と歯科医院で健診するのでは、どちらが精度が良いか皆さん分かりますが、良く見ようとすればするほど、う蝕罹率は上がります。健診の精度から問題が出てくる、ということが一つ、実際フッ素洗口をするのが、年長の1年間だけで、それが継続してやっていくとなるとまた話が違ってきますが、新潟県では、う蝕罹患率は確かに下がっているという統計は出ています。一番効果があるのは、フロリデーションといって、飲み水だとかにフッ素を入れるだとか、あと海外では、塩だとかにフッ素を入れる、タブレットにして飲むとかして体の中から、歯が生える前の歯にフッ素を蓄積させるのが、効果が高くなります。ところが、それには副作用があって、斑状歯といって、歯が硬くて逆にもろくなる場合があります。効果としては、飲んだりというようなものの方が良いけれども、副作用が出ることもあります。フッ素洗口では、まずそういうことは起こらないのですが、やらないよりは、やった方が良いのかと思います。

(佐久間委員長)

教育委員会としては、保健課で実施を進めていく上で、積極的な反対はしないが、このよ

うな議論と要望があったことを伝えていただきたいと思います。

次に、いじめ・不登校対策についてお願いします。

(鈴木北浦教育文化研究所長)

8月の児童、生徒の不登校の状況ですが、ここ5カ月、変化ございません。小学校においては2人、中学校においては8人、総計10人です。夏休み中、家庭訪問や電話連絡等、各学校においては、対象の子どもたちについて、現況の把握や登校刺激等の努めをしてきましたが、状況は変わらなかったということです。引き続き、各家庭と接点を持ちながら、粘り強くあたって行きたいと、各学校では申しております。本所としても、さくら教室ほか、9月、10月、学校の支援にあたって行きたいと思っております。いじめについては、該当ございませんでした。以上であります。

(佐久間委員長)

報告が終わりましたが、ご質問ありましたらお願いします。

ー質問なしー

次に会議録のホームページ掲載についてです。

(畠山教育総務課長)

先日皆様に送らせていただきました、第8回目、7月定例会会議録のホームページ掲載案でございます。資料をごらんください。資料説明。

(佐久間委員長)

後で読んでいただいて、何かありましたら事務局にお知らせいただきたいと思います。

委員の皆さまで、その他何かありますか。

(河原田委員)

文化財課に聞きたいのですが、弘道書院の試掘が8月下旬にあるという話でしたが、それについて教えてください。

(小松文化財課長)

8月22日から24日まで、伝承館の写真撮影場所を中心に、3mほど掘りました。深さは2mまで機械掘削の状況で、地層を確認しました。出てきたものは、大正時代に角館小学校が火災にあったそうですが、その木碑といますか、火災跡のようなものと、給食センターのがれき、古銭1つ、くぎ、その程度でした。我々が期待した弘道書院にかかわる詳しい何かは出てきませんでした。この後に、いろいろお願いしている秋田公立美術大学の澤田先生だとか、山形大学の永井先生に現地を一緒に見ていただいて、今後の方向性を報告書にまとめて、できるのであれば報告会をやって、進め方を検討していきたいと考えています。

(河原田委員)

たまたま掘った場所が良くなかったということではなかったですか。

(小松文化財課長)

弘道書院が恐らくこの辺にあるだろうというベースを作っていたのが、山形大学の永井先生だったので、それを基準に掘ったということです。掘った範囲が樹木や池だとかでもっと広範囲にできれば良かったのですが、それができなかったこともありました。

(稲田田沢湖学校給食センター所長)

3給食センターからですが、6月補正にノロ検査の予算を計上しております。10月からノロ発生率が高くなりますので、職員、調理員、10月から月1回の検査を実施したいと思

っております。実際、発症した人がいた場合、給食をどのようにしたら良いか、検討しなければならないと思っております。

(佐久間委員長)

工事は順調ですか。

(田中部長)

市民会館の耐震工事についてでございますが、震災の影響で部材が入ってこない状況だそうです。工期が10月10日まででございましたが、この間の打合せで、12月の中ほどまで工期の延長をさせていただきたいと申し出がありました。目隠し等をして、種苗交換会には影響の無いようにするとのことでした。それ以外の部分については、順調に進んでおります。

(田口スポーツ振興課長)

生保内市民体育館の雨漏りの修繕ですが、玄関の上の屋根については、工事が竣工しまして、雨漏り対策はできたと感じております。ただ、体育館の屋根は、お金をかけられないということで、今回は、市販のコーキング材で見えるところを塞いでおります。かなりの部分、それでケアできると思いますが、時間が経てば再びそういった状態が出てくるかもしれませんけれども、当面はその繰り返しで様子を見たいと思っております。それから、新聞等でも報道されておりますが、田沢湖スキー場でフリースタイルのモーグル競技を行うということ、秋田県議会で予算審議中です。一足早く仙北市の方は、市の負担分を今回の9月補正に計上しました。内容は、来年の3月14、15日に全日本のA級モーグルの大会を秋田県と仙北市、スキー連盟と一緒に、初めてこの種目を田沢湖スキー場で開催するというものです。そして、ワールドカップの誘致に向けていくという考えです。

(佐久間委員長)

ご協力ありがとうございました。これをもちまして9月定例会を閉会いたします。

6 閉会宣言 平成25年9月26日 午後3時30分